

令和5年度事業計画書

(令和5年2月1日から令和6年1月31日まで)

①会員の研究発表会，学術講演会等の開催（定款第4条第1号）

- ・第123回日本外科学会定期学術集会を下記のとおり開催し，会期後にWebでアーカイブ配信を行う。

日時 令和5年4月27日～29日

場所 グランドプリンスホテル新高輪（東京都）

参加予定者数 15,000名 演題予定数 3,000題

テーマ「より高く，より遙かへ-Higher & Further Together-」

- ・外科系サブスペシャルティ学会と共同して，学術集会の在り方を検討する。
- ・「日本外科学会学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針」を運用し，検証する。

②機関誌，論文図書等の刊行（定款第4条第2号）

- ・学会誌「日本外科学会雑誌」を奇数月に電子ジャーナルとして発行し，希望により配本する。
- ・「日本外科学会雑誌」の過去分のアーカイブ化を順次進めると共に，企画をリニューアルする。
- ・Official Journal「Surgery Today」を毎月電子ジャーナルとして発行する。
- ・Case Report誌「Surgical Case Reports」を毎月電子ジャーナルとして発行する。
- ・「Surgery Today」および「Surgical Case Reports」の出版委託契約の見直しを検討する。
- ・外科専門医試験の過去問題集を書籍化し，発刊する。

③内外の関係学術団体との連絡及び提携（定款第4条第3号）

- ・German Surgical Society (GSS), American College of Surgeons (ACS), Society of University Surgeons (SUS), College of Surgeons of East, Central and Southern Africa (COSECSA), The Association of Surgeons of India (ASI)などと持続可能な学術交流を行い，若手外科医の交換発表などを行う。
- ・新たに途上国からの研修・臨床の受け入れを検討する。
- ・Royal College of Surgeons England (RCS) と International Surgical Training Programme (ISTP) の募集再開に向けて partner Institution について再協議する。
- ・日本医学会，日本医学会連合，日本医療機能評価機構，日本女性外科医会の活動に積極的に参画する。
- ・外科系18学会と外科関連学会協議会を組織して，外科系の横断的な諸問題を協働で検討する。

④外科学に関する研究及び調査（定款第4条第4号）

- ・標準手術ビデオを5本作成して，「標準手術シリーズ」としてビデオライブラリーに収載する。
- ・標準手術シリーズの見直しを検討する。
- ・「外科臨床研究の利益相反に関する指針」に基づき，該当者から利益相反自己申告書を回収する。

⑤外科専門医の育成と専門医制度の運用（定款第4条第5号）

- ・日本専門医機構との業務契約の下，「外科領域専門研修プログラム」を審査し，専攻医の研修登録を行い，専攻医の研修状況を管理すると共に，研修管理システムの追加改修を行う。

- ・日本専門医機構と協働して、専門医共通講習および外科領域講習を開催する（eラーニングを含む）と共に、関連学会が開催する専門医共通講習および外科領域講習について審査を行う。
- ・日本専門医機構と協議の上で、外科専門医の更新の要件を外科系サブスペシャリティ学会と共に検討する。
- ・外科専門医制度および日本専門医機構との契約に則り、外科専門医を認定し、指導医を選定し、認定登録医を登録し、指定施設と関連施設を指定する。
- ・外科専門医の筆記試験（予備試験）をCBT方式で実施し、認定試験を文書審査によって実施する。
- ・外傷講習会をeラーニングで配信し、また、日本外傷診療研究機構、日本 Acute Care Surgery 学会、日本腹部救急医学会、日本外傷学会などの協力を得て、専攻医の外傷の修練を強化する。

⑥研究の奨励と優秀な業績の表彰（定款第4条第6号）

- ・臨床研究セミナーをeラーニングで配信する。
- ・Surgery Todayの優秀論文賞（Best Surgery Today Award）を表彰（5名）して、受賞コメントのビデオメッセージを公開する。
- ・Surgery TodayのBest Citation Awardを表彰する（5名）。
- ・Surgery TodayとSurgical Case ReportsのそれぞれのBest Reviewer Awardを表彰する（各5名）。
- ・第123回定期学術集会のビデオ演題のうち、優秀な演題を「最新手術シリーズ」としてビデオライブラリーに掲載して、制作補助費を支給する。
- ・最新手術シリーズの見直しを検討する。
- ・「日本外科学会臨床研究助成」（JSS Clinical Investigation Project Award）として1名を選考し、補助金を支給する。
- ・「若手外科医のための臨床研究助成」（JSS Young Researcher Award）として5名を選考し、補助金を支給する。
- ・National Clinical Database（NCD）を活用した臨床研究の助成を検討すると共に、複数領域に跨るNCDデータを利活用した臨床研究を行う場合の調整窓口を務める。

⑦生涯学習活動の推進（定款第4条第7号）

- ・教育セミナーをeラーニングで配信する。
- ・eラーニングのシステムをリニューアルする。
- ・40歳以下の若手会員（U-40）を中心として、外科医教育の在り方を検討する。

⑧外科診療に関する情報や指針の提供（定款第4条第8号）

- ・National Clinical Database（NCD）に参加し、外科症例登録のデータベース事業に協力する。
- ・関連学会と協働して、「臨床医学の教育研究における死体解剖のガイドライン（Guidelines for Cadaver Dissection in Education and Research of Clinical Medicine）」に基づくCadaver Surgical Training（CST）の普及を図る。
- ・AMED採択の研究課題「手術支援ロボットを用いた遠隔手術の実現に向けた実証研究」を行う。
- ・日本医学会連合と協働して、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を検証する。

⑨国民に対する外科医療の情報提供の啓発（定款第4条第9号）

- ・広報活動として、市民講座の動画配信を行う。
- ・SNSなどを活用した周知・広報活動を検討する。

⑩医療政策に関する建議（定款第4条第10号）

- ・外科系学会社会保険委員会連合（外保連）に参加し、外科技術料に関する適正な診療報酬についての調査収集と、その結果を元にした関係官庁などへの要望書提出に協力する。
- ・「医療事故調査・支援センター」（日本医療安全調査機構）の支援団体として、死因の調査分析事業に協力する。
- ・「学会認定・臨床輸血看護師制度協議会」に協力する。
- ・「特定行為に係る看護師の研修制度」を支援し、外科医の労働環境の改善に向けたタスクシフトの普及を図ると共に、厚生労働省の医師の働き方改革における集中的技能水準（C-2水準）の審査に協力する。

⑪その他前条の目的を達成するために必要な事業（定款第4条第11号）

- ・電子投票により、代議員の選任を行う。
- ・会員制度を見直すと共に、会員管理システムのリニューアルを行う。
- ・財務の健全化に向けた検討を行う。